徳川美術館　名品コレクション展示

令和6年9月10日(火)～12月15日(日)

展示期間　A:9/10(火)～10/14(月・祝) B:10/16(水)～11/15(金) C:11/16(土)～12/15(日)

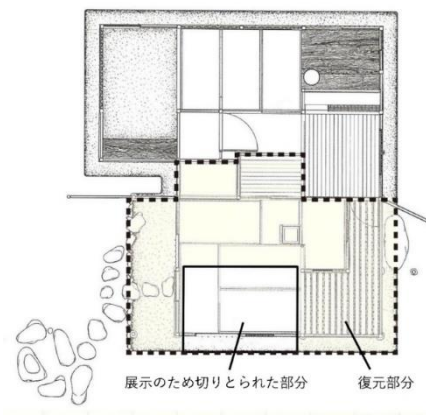
【第2展示室】

凡例:○は重要美術品を示します。

大名の数寄　－ 茶の湯 －

桃山時代に武将の間でも流行した「侘び茶の湯」は、江戸時代には「御数寄屋(おすきや)」の接待として、公式行事の一部に組み入れられた。こうして固定された茶の湯は、「侘び茶の湯」の持っていた美や新たな価値観をうち立てて行く自由な創造の精神を失って武家故実となり、格式行事と化した。大名は邸に茶室を設け、将軍の「御成(おなり)」をはじめ、晴の行事に備えた。茶の湯道具もまた格式道具となった。桃山時代に武将や上層町衆や数寄者(すきしゃ)が持っていた道具の大半は、江戸時代には将軍や大名の秘蔵品となり、「名物」の道具は、時に一国一城にもあたるとされ、その所持、非所持が家の格を表すとまで評された。

No.	指定	名称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
猿面茶室						
1		後奈良天皇仮名消息		室町	15	A
2		二大字「永忠」	後水尾天皇筆　近衛家伝来	江戸	17	B
3		五字一行書「好事不如無」	徳川光友(尾張家2代)筆	江戸	17	C
4		唐銅獣耳中蕪花生		元-明	14-15	
5		芦屋松竹梅文鐔付釜		桃山	16	
6		備前火襷水指	岡谷家寄贈	江戸	17	
7		古瀬戸肩衝茶入　銘 虫喰藤四郎		室町	15	
8		船越伊予守竹茶杓　歌銘 むら雀		江戸	17	A
9		小堀遠州竹茶杓　歌銘 面影	高松家寄贈	江戸	17	BC
10		志野刷毛目茶碗	岡谷家寄贈	桃山-江戸	16-17	
11		猪頭和尚図	伝一山一寧筆・同賛　個人蔵	室町	15-16	C
12		民部切　古今和歌集「ひとをおもふ」	伝源俊頼筆　岡谷家寄贈	平安	11	A
13		小堀遠州書状　風庵尊老(加藤正方)宛　霜月二日		江戸	17	B
14	○	宴座図	藤原定家筆　福山阿部家伝来　東松家寄贈	鎌倉	13	B
15		時代不同歌合絵 伊勢・清輔	伝冷泉為之筆	室町	15	A
16		拾得図　二幅対の内	伝賢江祥啓筆	室町	15	C
17		古銅水襷文獣耳花生	徳川義直(尾張家初代)所用	明	15-16	
18		青磁下蕪形花生		南宋	13	
19		鉄絵雲鶴兎文水指		明	15	
20		唐物茶壺　銘 判官　大名物	千利休・池田長幸・徳川家康(駿府御分物)・徳川義直(尾張家初代)所用	元-明	14-15	
21		唐物文琳茶入　銘 笘屋　大名物	小堀遠州命銘　竹中重義・加藤正方(風庵)・紀伊徳川家・徳川家治(10代将軍)・家達・徳川慶勝(尾張家14代)所用	南宋-元	13-14	
22		南蛮耳付茶入　銘 木葉猿	徳川光友(尾張家2代)・綱誠(尾張家3代)所用	東南アジア	16-17	
23		上建盞天目		南宋	12-13	
24		柿の蒂茶碗	岡谷家寄贈	朝鮮王朝	16	
25		紫銅向獅子香炉　大名物	武野紹鷗所用	明	15	

【第2展示室の見どころ　－猿面茶室－】

第2展示室では名古屋城二之丸御殿にあった「猿面茶室」を復元している。待庵・如庵と並んで茶室として最も古く注目すべき遺構で、国宝にも指定されていたが、昭和20年(1945)、戦災焼失した。もとは清須城内に営まれていたが、慶長15年(1610)、名古屋城内に移築され、上使の接待場にあてられていたと伝える。明治に至って城内の建築物が払い下げられ、のちに末森入舟山(現・千種区見附町)に移築したが、明治13年(1880)、名古屋博物館(後の愛知県商品陳列館)にこれを寄付、さらに昭和8年(1933)、鶴舞公園内に移設された。